

とう しゃ ばん  
騰 写 版

1975～84年頃(昭和50年代) はがき用/岡崎むかし館蔵

騰写版は孔版印刷(穴からインキを押し出して印刷する方法)のひとつで、19世紀末にアメリカの発明王エジソンによって考案され、1894年(明治27)に堀井新治郎が、蠟引き原紙に先のとがった鉄筆で書いて製版する方法を発明し、騰写版と名付けたことに始まります。改良が重ねられ、1975～84年(昭和50年代)頃まで、1枚の原稿から手軽に何枚も複写印刷できる道具として、会社や学校などいろいろなところで用いられ、重宝されましたが、事務用の簡易な輪転機やコピー機、ワープロなどが普及すると徐々に使われなくなりました。

この道具に覚えのある人は、「騰写版」よりも「ガリ版」の方が、馴染みのある呼び方かもしれません。使い方は、ガリガリと鉄筆で文字やイラストを原紙が破れないように書いて、注意深く原稿を作成(製版)し、騰写版のスクリーンにしわにならないように取り付けます。そして、均一にのばしたインクのついたローラーで、コロコロとスクリーンを押圧して印刷します。印刷物が完成するまでに、少々手間と時間がかかりますが、電気を必要としないため場所を選ばず、誰でも手軽に印刷できました。印刷物からは手作業による人の温もりが伝わり、この道具からは、現代よりも時間が少しゆっくりと流れていた時代を感じることができます。